

VOL.3 2022 NOVEMBER
NEWSLETTER

クロスメディア
【新しい言葉をつくり、言葉を具現化する人たち】

STORY

新たな気づき、発見、出会い



CROSS MEDIA GROUP

【18期事業計画会議】

新体制で挑む新年度の幕開け ————— 03

【新卒メンバーインタビュー】

グローバル採用第一期生に聞く、入社決め手と今後の意気込み ————— 04

【広報部より】

全スタッフによる11の社内委員会立ち上げの背景 ————— 05

【社員インタビュー】

今秋刷新のWebメディア

「こんな会社で働きたい」にかける想い ————— 06

【ビジネス書出版社社長のたまにはまじめな話】

Vol.27 経営哲学(フィロソフィー) ————— 07

【社長就任のご挨拶】

(株)クロスメディア・マーケティング

代表取締役社長 美濃部哲也 ————— 08

新刊ができるまで

「すぐやれない」自分に凹む日々。
担当書籍で「先延ばし癖」を克服した話

「すぐやる」。
個人的に、ずっと苦手だったんですよ。

- ・ やることがあるのに、スマホで漫画を読んでもしまっ
- ・ 夏休みの宿題は、いつも残り2日くらいでバタバタする
- ・ 旅行は、前日の深夜から荷造りして徹夜する

こんなことはばかりで、先延ばししがちだったので。親には「すぐやりなさい」と何度言われたかわかりません。

後回しにしてしまう悩みを著者の先生に相談すると、まず「人間だからだらだらしちゃうのはしょうがない」というお答えで、驚きました。そして人間は言い訳の天才であるということも……。そして、すぐやるためのヒントになる研究を教えてくださいました。

そこが、本書の始まりです。

編集部 大沢卓士

編集日記の全文はコチラ



18期事業計画会議

新体制で挑む新年度の幕開け



9月30日、クロスメディアグループは半年に一度の事業計画会議を東京文化会館にて開催いたしました。

本会議には今期より入社する新卒・中途メンバー4名を含めた約70名の正社員スタッフが参加し、各事業部ごとに前年度のふり返りと新年度の事業計画発表を行いました。各事業部長による発表で、グループ全体での理解が深まり、一体感を感じるものとなりました。

また、18期(10月1日)よりクロスメディア・マーケティングは代表取締役社長に美濃部哲也を迎え、新しい経営理念を発表しました。「ストーリーの力」でお客様のマーケティング活動と採用活動に深さと広がり創っていきます。

午後のワークショップでは、新年度(18期)より発足・活動開始する11の社内委員会のメンバー発表が行われ、各委員会にわかれてグループワーク

を行いました。

同じ興味関心をもつ部署を横断したメンバーと共に、本業とは別のプロジェクトを行うことで、相互理解を深めたり、個人のスキルアップや新しい強みを発見することで、組織力と企業価値の向上を目指します。

本ワークショップでは、会社の現状課題を分析し、目指すゴールと具体的な活動内容を委員会ごとに決定しました。全スタッフによる社内委員会の発足は会社としての初の試みですが、各委員会の発表に会場全体が終始、笑顔とワクワク感に包まれ、これからの活動が期待できるものとなりました(委員会活動の詳細については本誌P.5をご覧ください)。

経営理念はこちらから
ご覧いただけます





左：一法師 啓二 / 右：五十嵐 可奈

グローバル採用第一期生に聞く、入社を決め手と今後の意気込み

当社では海外留学生を中心としたベンチャーマインドをもつ学生を積極的に採用しています。今回は、10月に入社したふたりの新卒メンバーをご紹介します。

学生時代に学んでいたこと

一法師：私は米国の大学で服飾・ファッションを学んでいました。そこではSDGsやサステナブルについて学ぶ機会も多く、そのような取り組みをしている企業に入りたいと考えるようになりました。サステナビリティやSDGsを啓発するコンテンツの発信もしているクロスメディアグループに興味を持ちました。

五十嵐：私は大学でメディア関連の研究をしました。その中で、メディアを通して人の価値観を変えられるきっかけをつくりたいと思うようになりました。そんなとき、バイリンガル人材の採用イベント、京都キャリアフォーラムでクロスメディアグループに出会い、「ここしかない!」と思いました。

入社を決め手

一法師：選考に進む中で、実際に働いている社員の方との面談する機会をいただき、働くことのイメージが湧き、「この会社で働きたい!」と思うようになりました。自分の思っていることと会社のしたいことが合致する

ことが第一だと思っていたので、社長や部長などに丁寧に対応してもらい、自分の価値観と合うか判断することができました。

五十嵐：私の場合は元々メディア業界に興味があったことはもちろんですが、面接の際に採用広報の濱中さんに出会い、明るい人柄や優しさに惹かれたことも決め手の一つです!選考中は自分のありのままを話して、それをすごく受け止めてくれる企業だ、という印象がありましたし、私のいい部分を引き出してくれる質問をたくさんしてくださったので、そこでも社風や社員の方の温かさを感じました。また、リクライブ(採用特化配信サービス)で営業職の動画を見たときに、この仕事をやってみたいと思い、入社を希望しました。

入社後に感じたギャップや新たな発見

一法師：入社して数日ですが、一つ一つが勉強になっています。仕事の捉え方がすでに変わりました。たとえば、顧客に「対して」ではなく、顧客と「一緒に作り上げていく」ことが大事だと教えていただいています。

五十嵐：最初は「ベンチャー企業=何でも自分でやっていかなければならない」というイメージがありましたが、入社してみると先輩社員の方からの手厚い研修や教育制度が整っていて、本当にありがたいなと感じて

います。

一法師：事業計画会議もとても素晴らしかったです。初日だったので緊張すると思っていましたが、参加してみると社員の方がたくさん発言していて、新人の私にも意見を聞いてくださる場がたくさんあり、仲間意識あふれる雰囲気、とても勉強になる会議でした。入社一日目、海外進出委員会の委員長にも選んでいただきました(笑)。

五十嵐：本当に人柄が良い方ばかりで、たくさん話しかけてくださり、仲間意識がとても高い会社であることを実感しました。また、プロ意識の高い方が本当に多くて、プレゼンテーションなどを聞いていて、いつか私も先輩社員のようなプレゼンがしたい!とさらに意欲が湧きました。

これからの意気込み

一法師：一日でも早く業務を覚えて、会社を盛り上げていけるような存在に成長したいと思っています!海外進出委員会の活動も事業化できるよう、がんばります!

五十嵐：新人の私にも、先輩社員の方が発言権を与えてくださるので、もっと積極的に意見を発信できるようにがんばりたいです!

「やってみたい」を叶える
もうひとつの場所



全スタッフによる11の 社内委員会の立ち上げの背景

広報の濱中です。弊社の広報部では、社外への発信だけでなく、グループ会社の取り組みの企画から行っています。この度、18期を迎えると同時にグループの全スタッフで、11の社内委員会を一度に立ち上げました。

個人の興味関心を生かして委員会を選んでもらい、必ずひとつの委員会に所属する仕組みになっています。それぞれの「やってみたい」という気持ちを大事にするため、全員の希望にそってメンバー編成を行っています。

また、「人生100年時代」といわれる中、個々人のスキルや経験、能力が一層重視される世の中になってきています。自分の専門性やスキルで世の中に貢献し、必要とされる人になることで豊かな人生にしていけることができます。

広報部としては、各員会活動によって、一人ひとりが新しい自分の強みや専門性に出会ったり、部署を超えた新しいつながりをつくる場所にしていきたいと思っています。

「今の仕事も楽しいけど、実は他にもやってみたいことがある」「たったひとつの専門性だけで、将来が少し不安」そんな社内のニーズにも応えられるプロジェクトだと思っています。

企業価値向上のために、委員会活動を全スタッフで楽しく行ってまいります。

- 01 教育研修委員会
- 02 データ活用委員会
- 03 商品PR委員会
- 04 海外進出委員会
- 05 人材採用委員会
- 06 情報システム委員会
- 07 SNS活用・運用委員会
- 08 ウェルビーイング向上委員会
- 09 オウンドメディア開発運営委員会
- 10 イベント企画実行委員会
- 11 ナレッジマネジメント委員会

〈委員会立ち上げの目的〉

企業価値の向上

経営課題を全員で解決する

個人のスキルアップ

本業とは違う興味関心のある分野で、スキルアップを図る

組織力アップ

グループ全体の部署横断のプロジェクト(委員会)を通じて他部署の人と交流する

委員会活動を通じて部署を超えた仲間の個性や特長を知ると、チームワークとコミュニケーションが良くなり、お客様へのサービスとアウトプットの質が上がります。それが仕事へのやりがいにもつながるのです。



クロスメディアグループ企業広報
濱中悠花

「運命の出会いが生まれるメディアに」。 今秋刷新のWebメディア 『こんな会社で働きたい』にかける思い

クロスメディア・パブリッシングのオムニバス書籍『こんな会社で働きたい』シリーズでは、特定地域の企業を紹介したり、「健康経営」「SDGs」などのテーマに取り組み企業を取り上げ、その実例を紹介してきました。

そんな人気書籍シリーズを掲載したWebメディアでは、これまで全14作品、約150の企業や団体を紹介してきました。

それから3年が経過し、より一層の価値を見出すため、情報量、質、鮮度にこだわり、この度『こんな会社で働きたい』Webとして刷新することになりました。

企業の広報支援を目的として、全国の企業を一社ずつ取材し、弊社の強みとする編集力をもって企業の魅力を最大限に発信するメディアになっており、求人票だけでは決して分からない企業が求める人材像や企業の特徴・文化、技術や伝統まで余すことなくお届けしています。

今回はそんな『こんな会社で働きたい』Webのプロジェクトメンバーの幸坂と神田にインタビューしました。

お客様のもつ課題は？

幸坂：グローバル化やデジタル化、コロナ禍で加速したライフスタイルの多様化など、企業を取り巻く環境の変化は一層激しくなっています。そうした中、企業の持続的な価値向上のために求められているのがCSRの発信やSDGsへの取組み、経営戦略と人材戦略を連動させたESGや人的資本経営の課題などです。

本人的資本経営とは「人材を『資本』として捉え、その価値を最大限に引き出すこと」を、中長期的な企業価値向上につなげる経営のあり方

神田：情報発信力を強化していきたいという企業や団体が多く、こうした背景にあって、Webメディアは企業や団体の発信する

情報を本当に必要としている人たちに届けていく役割があると思っています。

本プロジェクトにおけるそれぞれの役割は？

幸坂：営業の最前線です。全国の企業へのご案内や問い合わせ対応はもちろん、行政や大学とのイベント、そして営業代理店の対応まですべて担当しています。

神田：自ら企業取材を担当しつつ、営業と編

集、外部業者との全体の工程管理や外部ライターやカメラマンとの打ち合わせ、現場には同行取材しディレクションも担当しています。

どんなWebメディアにしていきたいか？

神田：まずは企業と読者、企業と企業、そしてゆくゆくは読者と私たちの運命の出会いが生まれる場を目指していきます。私たちのメディアを通じて、サステナブルな循環が生まれていくようなWebメディアにしていきたい

と思っています。

それぞれの個人目標は？

幸坂：欲張りかもしれませんが、全国でソリューションを求める企業には必ず手を差し伸べたいですね。サービスや商材を売ることが営業ではなく、一つの出会いからお客様との二つのアイデアが生まれ、そこからさらにアイデアが掛け合わさっていくことで最終的に企業間同士のシナジーの創出を支援する、あるいはお客様の企業成長に伴走し続けたいと思っています。

神田：サステナブルな活動を通じて、社会に貢献していきたいと考えている企業の価値を解像度高く伝えることを目標としています。それを見た読者の方々が、広い視野で企業を知る機会を持ってくださって、行動に結び付けていただければ幸いです。お客さまと共に本Webメディアを通じてイノベーションを起こしていきたいですね。



幸坂



神田

「こんな会社で働きたい」Webに関する
ご質問・ご掲載の相談等はこちら

▼
kosaka@cm-group.jp (担当：幸坂)

Vol.27 経営哲学(フィロソフィー)

京セラの創業者の稲盛和夫さんがお亡くなりになりました。稲盛さんは、ビジネスパーソンには説明を必要がない、日本を代表する経営者でした。当社でも『なぜ稲盛和夫の経営哲学は、人を動かすのか?』(岩崎一郎 著)という本を出版した際は、稲盛さん、盛和塾、京セラの方々にご協力をいただいた縁があります。

稲盛さんの著書は、多くの経営者に読まれています。日本だけではなく世界中で読まれていて、特に中国では2004年に発行された『生き方』(中国語タイトル:『活法』)は約550万部を超える大ベストセラーになっています。今でも、中国の大手書店に行けば、どこでも平積みされているとあっていいほどの人気ぶりです。

中国では、高度経済成長が終わり、成熟した社会の中での企業経営の在り方を模索する経営者がたくさんいます。その方たちにとって、稲盛さんの経営哲学は人生の指針となると高い評価を得ています。

稲盛さんの経営の特徴は、「フィロソフィー」と「アメーバ経営」の2つの手法を用いて経営を行うことです。フィロソフィーは「経営哲学」、アメーバ経営は「経営管理手法」で、この2つが経営の両輪となり、京セラだけではなく、KDDIや JALの経営でも効果を発揮しています。またこの2つは、それぞれ書籍としてベストセラーにもなっています。

私が最近読んだ『稲盛と永守』(名和高司 著)という本では、同じ京都発、日本を代表する経営者の共

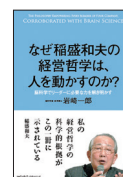
通点を述べていますが、稲盛さんのフィロソフィーは再び学ぶべきことだと思います。稲盛さんの他にも、Panasonicの松下幸之助さん、SONYの井深大さん、HONDAの本田宗一郎さんといった偉大な創業者は、経営哲学を社内に浸透させ、上手に後継者へ経営のバトンを渡しています。

私は、創業当時は「経営哲学では飯は食えない」と思っていたのですが、苦悩や葛藤にもがきながら18年も経営をしていると、経営哲学の必要性は身にしみてわかります。

ここ数年、サステナビリティ(持続可能)経営が企業において必要と叫ばれていますが、それを実現するためには、環境、社会、経済への配慮に基づいた経営哲学の確立と徹底を地道に行っていくことが必要だと思う次第です。

クロスメディアグループ代表 小早川幸一郎

(毎週、「社長の四方山話」を更新しています)



『なぜ稲盛和夫の経営哲学は、人を動かすのか?』
脳科学でリーダーに必要な力を解き明かす
岩崎一郎(著) / 2016年3月11日発売



フィロソフィーを社内でも共有する効果は経験的にはわかっているけれど、スタッフにうまく説明ができない経営者の方、もっと確かな根拠があるほうが実践しがいがあると思っている方、科学的な根拠がないために学ぶことにもためらいを感じている方、に読んでもらいたい本です。

採用情報



クロスメディアグループは、新しい言葉と共に、新しい商品やサービス(=こと)、新しい空間メディアや働く環境(=ば)を創造してきました。想いが「ことば」になる喜びと感動を届けたい。そして自分自身の人生も、より豊かにしていきたい。そんなあなたをお待ちしています。

応募職種

コンサルティング営業 / Webデザイナー / グラフィックデザイナー / 書籍編集 等

その他、クリエイティブな職種を多数募集中です!



エントリーはこちら

18周年のご挨拶

弊社は10月15日をもちまして創立18周年を迎えました。これもひとえに皆様のご支援、ご愛顧の賜物と心から感謝申し上げます。

これを機に社員一同、一層の努力を行い皆様のご愛顧にお応えしていく所存でございます。今後とも、なにとぞご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

クロスメディアグループ

CROSS MEDIA GROUP



社長就任のご挨拶

この度、株式会社クロスメディア・マーケティングの代表取締役社長に就任いたしました、美濃部哲也と申します。

サステナビリティやパーパスを重視した経営が大切になってきている昨今ではありますが、企業から発信される情報には、想い・情熱が込められているものや物語を感じるものが減ってきてしまっているように感じます。そこでは、気づきや発見、出会いも少なくなっています。まだ言葉にはなっていない潜在ニーズが掘り起こされることもなく、多くの人が「今だけ、ここだけ、あなただけ」といったセールストークに追いかけられるようになり、「気がつくと気持ちが疲れている」といった声をよく耳にします。そういった活動に力点が置かれすぎているマーケティング活動には、もう、そろそろ、限界がきているようにも思えます。昨今のプライバシー（個人情報保護）に関しての流れは、短期視野のマーケティング活動に対して、全世界のヒューマニティーからNOが突き付けられているようにさえ感じます。

「このようなご時世の中で、何ができるのか？」そのことを念頭に、私たちは活動を続けてまいりました。私たちがだからこそ、していくべきこと。それは、企業発の情報やマーケティング活動の中に、「気づき、発見、出会い」が生まれ、心がときめいたり、豊かになる機会を増やしていくコンテンツを、ひとつでも多く、お客様と共に創っていくことだと考えています。そのようなコンテンツを起点にして、マーケティング活動や採用活動に深みや広がりやを創っていきたくと考えています。実は、同じような想いで活動していきたいと考えるお客様は年々増えてきています。手前味噌ですが、ほぼすべてのお客様に「クロスメディア・マーケティングと一緒に課題に取り組むことができて、とても良かった!」という高い評価をいただいております。

たとえば、書籍。そこで生まれる何かとの出会いは、誰かの人生が変わるきっかけにもなります。迷っている時に道しるべを示してくれることもあります。誰かが前に進む勇気を与えてくれたりもします。心を癒してくれたりもします。たとえば、想いが込められたヒューマンストーリー。それは、読んだ人にとって気づきや発見に溢れた物語でもあります。そのような本格的なコンテンツを、これまでと同様に、フィジカルでもデジタルでも様々な形で展開して、生活者と企業の間で運命の出会いを創り続けていきたくと考えています。

スマホの中や全国の街にある書店が、出会いやときめきに溢れた場所になっていく。暮らしの中に気づきや発見、そして、想いが深まる機会が増えていく。そのためにできることをひとつひとつ、お客様と一緒に形にしていきたい。そう考えています。私たちが18年の間で培ってきた編集力とプロデュース力で、これからも、ひとつひとつ形にしていきたいと思います。

令和4年11月吉日



美濃部 哲也の本『仕事の研究』

予測不可能な時代をたくましく生き、
明るい未来を創っていく若い世代の人たちへ。

これからの時代は「ジョブ型雇用」の時代。どの
部署や企業に属しよう、一人ひとりの専門性や
“らしさ”で活躍することができる!



株式会社クロスメディア・マーケティング

代表取締役社長 美濃部哲也

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-3

TEL: 03-5413-3140

minobe@cm-group.jp



物語の力で運命の出会いと可能性を。

CROSS MEDIA MARKETING